

第1期モニターアンケート調査の報告

高い関心・良い評価・事例への要望・厳しい指摘・建設的な意見

現在、ひと口にOR学会の活動といっても、その内容は多岐にわたっており、今、当学会で行なわれている研究普及活動に関する皆様のお考えをうかがいながら、よりよい方向をみざす時期ではないかと思えます。このような背景から昨年よりモニター制度がもうけられました。

第1期は、昨年8月より今年1月まで30人の方々に、モニターとしてご協力いただき、さまざまなアンケート調査にご意見ご提案をいただきました。ご協力いただきました皆様には、この紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。皆様からいただきました有益な多数のご意見は、今後の学会活動の発展に資したいと存じております。

この期間中に毎月1回、計6回のアンケート調査を行いました。アンケートは、毎回共通の質問項目と各回ごとに異なる質問項目とに分かれており、毎回共通の質問項目は、OR誌の特集記事に関するものでした。

また、各回ごとに異なる質問項目は以下のようなものでした。

- OR誌学会だよりと連載記事について
- 最近の研究発表会と1980年10月の秋季研究発表会の日程、プログラムについて
- 1980年10月の秋季研究会発表会の運営内容について（懇親会、見学会も含む）、第8回シンポジウムについて
- ORサロン、月例講演会について
- 研究部会、見学会について
- 学会の研究普及活動全般について、モニター制度について

これ以外に秋季研究発表会会場でモニター会議を開き、皆様から多数のご意見をいただきました。

アンケート調査の回収率はたいへん高く、モニターの方々の学会活動への参画意識がうかがわれます。

OR誌特集記事は、この期間中に次の特集が組まれました。

8月 オピニオン・テクノロジー

9月 航空のOR

10月 スポーツのOR(PART-II)

11月 デンジョン・サポート・システム

12月 モデルの複雑さへのアプローチ

1月 カントリー・リスク

これらの特集記事について毎回アンケート調査を行いましたが、ほとんどの皆様が、興味をおもちになられたようです。興味をもたれた理由として「仕事に関係があるから」「考え方が他の分野に使える」「個人的に興味がある」等をあげられた方が多かったようです。また記事の難易度に関しても適当と答えの方が圧倒的に多く全体としてOR誌の特集記事には、良い評価がされているようです。その他OR誌に関して、事例研究のような現実の問題を扱ったものを多く掲載してほしいというご要望も多く見られました。

OR誌発行とならんでOR学会の主要な活動の1つである春秋の研究発表会については、研究発表会の前後2回にわたってアンケート調査を行いましたが、会場、プログラム、日程等については妥当であると答えの方が多かったようです。特別テーマの選択、特別講演、一般発表についてもさまざまなご意見ご提案をいただきました。ただペーパー・フェアに関しては、会場の設営がむずかしく、夜店のな雰囲気が出しきれていないというご指摘もありました。懇親会、見学会に関しては、参加した経験のある方はあまり多くなく、なんとなく参加しにくいとお感じの方が多くようです。

その他、シンポジウム、月例講演会、ORサロン、研究会等についても多数の建設的なご意見ご提案をいただきました。これらのご意見を今後の研究普及活動に反映させてまいりたいと思います。なお現在第2期モニターは27名の方にご協力をお願いしております。モニターの方に限らず一般会員、読者の方からも今後とも学会活動の発展に自由なご意見をお寄せくださるようお願い申し上げます。

(昭和56年4月 研究普及委員会)